



2014年
4月19日(土) - 6月1日(日)

□開館時間
9:00-17:00
※入館は16:30まで(初日は10:00開館)

□休館日
5月13日(火)

□入館料
大人:500円(400円)
高大生:300円(240円)
※中学生以下、障害者手帳をお持ちの方、妊婦、65歳以上の方は無料
※20名以上の団体は()内の入館料

□展示協力
愛知県陶磁美術館

□助成
公益財団法人せとしん地域振興協力基金

□主催
大せとの祭協賛会
せとのフェスタ2014実行委員会
陶祖800年祭実行委員会
公益財団法人瀬戸市文化振興財団
瀬戸市美術館



古瀬戸の全貌

瀬戸焼の黎明と発展

陶祖800年祭記念・せとのフェスタ2014・瀬戸市美術館特別展

《灰釉水注》
14世紀後期 胴径14.5cm
愛知県陶磁美術館蔵

《鉄釉鉄流し根形瓶子》
15世紀前期 高25.6cm
愛知県陶磁美術館蔵

《鉄釉草花文仏花瓶》
14世紀前期 高28.7cm
瀬戸蔵ミュージアム蔵

《灰釉魚文四耳壺》
愛知県指定文化財
14世紀前期 高31.6cm
名古屋博物館蔵

瀬戸市美術館
Seto City Art Museum

〒489-0884 愛知県瀬戸市西茨町113-3
TEL 0561-84-1093 / FAX 0561-85-0415
E-mail art@city.seto.lg.jp

陶祖800年祭記念・せとのフェスタ2014・瀬戸市美術館特別展

古瀬戸の全貌 —瀬戸焼の黎明と発展—

瀬戸市には古くから陶祖伝説が伝えられています。それは、加藤四郎左衛門景正が、貞応2年(1223)に曹洞宗の開祖である道元禪師と共に中国・南宋に渡り、宋のやきものの技術を学んで帰国した後、日本各地でやきものに適した土地を探して試し焼きを行った末、ついに仁治3年(1242)、瀬戸において良土を発見し窯を築いたのが瀬戸焼の始まりというものです。瀬戸市では、この陶祖である加藤四郎左衛門景正が生きたとされる時代から800年を迎える今、陶都瀬戸の再発見と発展につなげていく「陶祖800年祭」を平成24年度から26年度にかけて展開しています。

今回の展覧会は、陶祖が生きたとされる鎌倉時代に瀬戸で新たに生まれたやきものであり、中国陶磁等の影響を受けながら成立した「古瀬戸」について、様々な視点から明らかにするものです。

「古瀬戸」は、12世紀終わり頃にその生産が開始され、15世紀終わり頃の「大窯」製品の生産へと推移するまでの鎌倉・室町時代の約300年間にわたり瀬戸窯で生産され続けたやきものです。その内容や技術によって、中国青磁や白磁、朝鮮半島の高麗青磁等を写した灰釉製品が作られる前期、天目茶碗等の鉄釉製品が出現し、さらに器面を彩る印花文や画花文等、多様な文様が施されるようになる中期、そして日常生活容器が量産されるようになる後期の大きく3段階に分かれます。この「古瀬戸」は、日本の中世において唯一の施釉陶器であったことから、日本全国に流通していき、それにより瀬戸窯は、国内屈指の窯業地として成長を遂げていきました。

本展では、「古瀬戸」について、その名品とともに、成立に大きく影響を与えた中国陶磁等や、生産地でしか提供出来ない窯跡出土品等により、「古瀬戸」の全貌に触れ、その理解を深めることで、陶祖への思いを馳せていただくとともに、先人達への感謝として「陶都瀬戸」への誇りが強まればと思っています。

□関連事業

●講演会「古瀬戸の黎明」
講師：藤澤良祐氏(愛知学院大学文学部教授)
日時：平成26年5月10日(土)午後1時30分～午後3時
場所：瀬戸市文化センター文化交流館22会議室
※事前申し込み不要、参加費無料

●ギャラリートーク(学芸員による作品解説)
日時：平成26年4月26日(土)、5月18日(日)
両日も午後1時30分～
場所：美術館展示室
※事前申し込み不要、要入館料

□同時開催

陶祖800年祭記念・せとのフェスタ2014・第1回瀬戸・藤四郎トリエンナーレ グランプリ受賞者展「田中良和展」
4月19日(土) - 6月1日(日)

□関連展示

●瀬戸蔵ミュージアム
企画展「陶祖伝—陶祖伝記とその時代—」
4月19日(土) - 6月1日(日)
☎0561-97-1190

第一章 古瀬戸の歴史



《灰釉瓶子(一对)》
13世紀後期 高35.5cm 個人蔵



《灰釉魚文折縁深皿》
14世紀前期 口径30.4cm 愛知県陶磁美術館蔵

第二章 古瀬戸のモデルとコピー



右
《鉄釉牡丹文瓶子》
14世紀前期 高26.7cm
愛知県陶磁美術館蔵



左
《青白磁唐草文瓶子》
中国12世紀-13世紀 高29.5cm
京都国立博物館蔵

第三章 瀬戸出土の古瀬戸



《鉄釉狛犬》
14世紀前期 赤津根窯跡出土 高10.8cm
瀬戸市蔵



《灰釉茶臼》
15世紀前期 養窯跡出土 底径17.5cm
(公財)愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財調査センター蔵

第四章 北海道・九州出土の古瀬戸



宮崎県都城市出土古瀬戸
14世紀前期-15世紀後期

第五章 古瀬戸研究



鈴木八郎氏(右)窯跡調査

□次回展覧会

陶祖800年祭記念・瀬戸市美術館特別展
「美術工芸の明日を担う20人展」
—今瀬戸にKOUGEI力が結集!—展
6月7日(土) - 7月27日(日)

□近隣施設のご案内

- 瀬戸市新世紀工芸館
企画展「瀬戸染付の今」
4月2日(水) - 6月22日(日)
☎0561-84-1093
- 瀬戸染付工芸館
(平成26年4月1日から館名変更)
企画展「瀬戸染付名品展」
4月2日(水) - 6月30日(月)
☎0561-89-6001
- 愛知県陶磁美術館
特別企画展「桃山・江戸の華やき古唐津・古武雄」
4月12日(土) - 6月15日(日)
テーマ展示「寄贈記念 世界をみる眼
古陶磁とガラス：西垣千代子コレクション」
4月26日(土) - 6月15日(日)
☎0561-84-7474



- ◆JR名古屋駅から(所要時間約1時間)
地下鉄東山線で「栄」へ。名鉄瀬戸線に乗り換え「柴町」から「尾張瀬戸」下車、徒歩13分。
- ◆「名古屋I.C.」「長久手I.C.」から(所要時間約30分)
東名高速道路「名古屋I.C.」「長久手I.C.」を降りて瀬戸方向へ。グリーンロード「愛・地球博記念公園」、または「八草I.C.」まで行き、左折(北)し、瀬戸市街地へ。
- ◆「せと赤津I.C.」から(所要時間約10分)
東海環状自動車道「せと赤津I.C.」を降りて瀬戸方向へ。

問い合わせ先
瀬戸市美術館
〒489-0884 愛知県瀬戸市西茨町113-3
TEL 0561-84-1093 / FAX 0561-85-0415 EMAIL art@city.seto.lg.jp

瀬戸市美術館
Seto City Art Museum